
■ さろん | Mail News 2017/7/15 | #95 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

=====Vol.95 2017年7月15日(土)=====

さ | ろ | ん |

— | — | — |

M | a | i | l | N | e | w | s |

— | — | — | — | — | — | — |

<http://salon-public.com/> (バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

INDEX

| 【おしらせ】(7/21) 座談屋ゆるみ亭カフェ「人物評価ってどんなふうにしてる？」

| 【1】コラム/エッセイ

| ◇『アイドルの結婚宣言について ~断簡』

| ◇『Soaked in Sendai.——「観光客」として考える、ということ——』

| 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています

| 【2】コトバをハーバリウムする

| 【3】さろんアーカイブの遊歩道

| 編集後記

CONTENTS

【おしらせ】

(7/21) 座談屋ゆるみ亭カフェ

テーマ「人物評価ってどんなふうにしてる？」

通称『ゆるカフェ』。ゆるやかに営業中です。
今月のテーマは「人物評価ってどんなふうにしてる？」。
7月21日（金）19:30-21:30 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。
ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで

7月21日（金）19:30より

渋谷駅徒歩6分（申込者にご案内）

参加費100円（別途、注文した飲食費実費をお支払いください）

お申込み：salontetsugaku@gmail.com

（幹事：せりざわ）

——【1】コラム／エッセイ——

▽【アイドルの結婚宣言について ～断簡】 一生

▽【Soaked in Sendai. ——「観光客」として考える、ということ——】 セリンジャー

▽【アイドルの結婚宣言について ～断簡】 一生

「恋愛禁止」の規則があるAKB48。先月17日に沖縄県で開催された選抜総選挙で最も大きく報じられたのは須藤凜々花氏による突然の結婚宣言であった。ネット上では、批判と祝福が飛び交い、元メンバーなど関係者の発言がニュースをにぎわしている*1。

同様の規則を争点にした昨年1月の裁判では「アイドルビジネスの成り立ちから交際禁止規定の一定の合理性はある」と理解を示した一方、幸福追求権に言及し「たとえアイドルでも恋愛については、一人の女性として幸福を追求する権利があり、これを妨げてはいけない」と踏み込んだ判断を下した*2*3。

須藤凜々花氏はアイドルである前に一個人であった。総選挙のスピーチでは「アイドルとしてではなく、人間一人、須藤凜々花として」という旨を繰り返し、結婚宣言している。哲学に興味があると自負する彼女にとって今回の行動のどこに哲学性があるか考えている。

*1：朝日新聞2017年6月24日夕刊：「AKB総選挙、次の物語は…」

*2：アイドルは恋愛してはいけないの？ 2つの判決にみる裁判所の判断

<https://thepage.jp/detail/20160206-00000002-wordleaf?page=2>

3：筆者による補足：この判決は、アイドルである個人の幸福追求権を損害賠償等の制約をもって妨げることは行き過ぎとし、損害賠償権を棄却している。

* : 『恋愛禁止違反で損害賠償』！？ ～最近の二判決から考える～

<http://www.kottolaw.com/column/001245.html>

▽ 【Soaked in Sendai. — 「観光客」 として考える、ということ —】 セリンジャー

—— 宛先も差出人もわからない叫びをひとつ預かっている (奥田亡羊)

「さろん仙台ツアー」(6月17日 - 18日)に参加した。2012年の「さろん京都ツアー」以来じつに5年振りのツアーとなった。“tour”という語には『(視察・巡遊などの) (小) 旅行、周遊、観光旅行、(劇団の) 巡業、(スポーツチームの) 遠征』という意味があり、ラテン語の原義では『旋盤、回るもの』だという。

今回のツアーはまさしくこれらの意味を包含したような旅だった。ある時は遠征や巡業の主催側スタッフ(「さろん哲学」)であり、またある時はイベント主催者としての視察・周遊(「考えるテーブル てつがくカフェ」¹⁾)であり、あるいはただの一個人としての観光(自由時間)であった。

こうしたツアーの実施にあたっては「旅マエ、旅ナカ、旅アトの流れ」をどうつかんだらいいかということが気になるが、旅が終わったいま、次なるツアー構想のための総括としても、振り返りをしてみたいと感じている。——この仙台ツアーで感じたことについて、考えてみたい。

1、旅に出る、ということ

旅に出るはじめて考えることがある。旅に出るまでは見えなかったものがある。旅に出るとは、“いま・ここ”が移動することだ。日々のなかでイメージしている「仙台」や「東北」あるいは「震災」といった事柄も、“いま・ここ”である関東での生活のなかから立ち上がってきた認識にはかならない。かといって、“いま・ここ”が移動するということがそのまま真実を理解するということにはならない。従って旅に出るということは、「私は本物を知っている」などという慢心から遠く離れ、「知っている」という認識を「まだなにも知らない」「十分には理解できていない」へと正しく変容させる行為である。

このことをサイドは『故郷を甘美に思う者はまだ嘴の黄色い未熟者である。あらゆる場所を故郷と感じられる者は、すでにかかりの力をたくわえた者である。だが、全世界を異郷と思う者こそ、完璧な人間である。』²⁾という一節を引用することで暗示する。旅に出かけるとは〈異郷〉として出会い直すことでもある。鷺田清一は『デペイズマン (dépaysement)。居心地の悪いこと、異郷にあること、立ち位置をずらされること。見晴らしのよい場所に出るためには、さしあたってここが確

¹⁾ 考えるテーブル てつがくカフェ <https://www.facebook.com/CafePhiloDeSendai/>

²⁾ 『オリエンタリズム (下)』エドワード・W・サイド (平凡社ライブラリー、1993) (p138 ; アウエルバツハが引用した聖ヴィクトルのフーゴー『ディダスカリコン』の一節)

かな場所でなくなるのが前提になります。』³と〈異郷〉に飛び出すことの重要性を問うている。

さらんでは、仙台ツアーの出発前に『想像ラジオ』（いとうせいこう）、『ボラード病』（吉村萬巻）、『還れぬ家』（佐伯一麦）という震災後文学三作品を横断して読みながら、〈震災と〈わたし〉のあいだ〉というテーマを問いかけた。現実起こった出来事を虚構化・再構成した「小説」という皮膜を通して震災の経験を読み直す試みでもあったが、この試みを通して一度まとめられ固められようとしている思考さえも脱ぎ捨てることで、ようやく〈異郷〉へと踏み出すことができる。

ではこの〈異郷〉でなにを見て来たか。今回の仙台ツアー告知では明記こそされていないが、6年3ヵ月前に起こった東日本大震災がひとつの核としてある。〈異郷〉としての仙台に出かけてみて、抜き差しならない〈震災〉という事実にあらためて接することになった。ツアーに参加したことで“いま・ここ”が〈震災〉に触れる。——そういう体験ができた。しかも一人じぶんだけでなく、参加者一人ひとりにとっても。

2、〈震災〉に触れ直す

訪問した「てつがくカフェ@せんだい」の活動は震災前の2010年から行われていたが、震災後その様子が大きく変わったという。特にせんだいメディアテークで実施されている「考えるテーブル てつがくカフェ」は〈被災地〉や〈被災者〉、〈被災体験〉という問いをめぐって、震災100日目の2011年6月に活動を再開し、根気強く対話の場を積み重ねられてきた。“いま・ここ”で起こりじぶんが体験したことを言い表すのにどんな言葉が適当なのか、それをどこから話し始めたらいいのか——。対話やテーマの具体的な見通しなど持てないまま、圧倒的な切実さに圧されてその場は開かれ始めたと思われがちだが、最盛時には100人を超す参加者がこの場での対話を求めて訪れたという。

こうした情報をHPなどを通じて得ることができた一方で、被災地と呼ばれる場所とそうでない場所の分断を超えて対話を行う「てつがくカフェ@せんだい×とうきょう」⁴という試みも2014年から東京で開催されてきた。そこでは「震災を生きる私たちにとっての〈東京〉とは」、「震災を語るときのズレを問う」、「震災を語る資格」やそれ以外にもさまざまなテーマが対話されていた。対話のなかでは〈被災の当事者とはいったい誰を指すのか?〉や〈ほんとうの支援ってなんだろうか?〉、また〈被災者の痛みを理解なんてできるのか?〉という真剣な問いが浮かび上がったり、〈考えたいと思ってるのか、考えなきゃいけないと思いついでいいのか、自分の気持ちがわからない〉という率直で困り顔の感想が聞かれたりもしたのが記憶に残った。

仙台ツアーで訪問した「てつがくカフェ」。この回のテーマは「いま、『選ぶこと』の意味を問い直す」だった。『選ぶこと』という一般化された言い回しがされているものの、テーマ設定の背景にあったのは、某大臣の「自主避難した人たちは…」という発言への違和感だったという。それゆえにこのテーマは『自主避難を「選ぶこと」は、たとえそれが本人の〈選択〉（自己判断）に基づいたものという体裁をとっていたとしても、その〈選択〉の結果を単純に「本人の責任」だと言い切ることは難しいのではないのでしょうか。』⁵という、震災そのものに触れた問いにもなっている。

³ 「わからないことにわからないまま正確に……」 鷲田清一

（『ミルフィユ06 わからないことにかかわれなくなってきた。』smt、赤々舎、2014）

⁴ てつがくカフェ@せんだい×とうきょう <https://sendaixtokyo.jimdo.com/>

⁵ てつがくカフェ第61回「いま、『選ぶこと』の意味を問い直す」 <http://table.smt.jp/?p=13618>

この文脈と「震災について対話を重ねているてつがくカフェ」という性格もあいまって、哲学対話のなかで“選ぶ”ということについて話されるとき、「自主避難者のケース」に寄せるまなざしや「震災の具体的な事実（体験）を捨象しない」という心情がここでは常に寄り添っていると感じられて印象的だった。なにを語るにも頭のなかに震災のことがよぎる人と、必ずしもそうではない人の言葉が交差することで露になるその“溝”を感じ取ることは、〈震災〉に触れ直すことの端緒なのはないか。差異が色濃く際立つ対話の場——という〈異郷〉に身を置くことでそれまでの認識がゆらぎ、それによってはじめて得られる視点がある。持続する緊張感のなか二時間半に渡ってじりじりと、そして真剣に問いと向き合い続けた参加者一人ひとりの姿勢や身振りなどからもたくさんの気づきを得られたようにおもう。

3、「観光客」として考える、ということ

自由時間を利用して仙台でも津波被害の大きかった沿岸部、若林区の荒浜を訪れた。仙台駅から地下鉄東西線に乗って13分の荒井駅、そこから市営バスで15分ほど。仙台市街から30分も走らない荒浜地域には震災前1700人が暮らし、津波で集落ごと流されたとドキュメンタリ番組⁶で目にした。南東からの「イナサ」と呼ばれる温かな風が吹くなか、今年4月に震災遺構として開設された「仙台市立荒浜小学校」⁷を見学した。荒浜小に達した波の高さが外壁に残され、津波によって壊された壁やベランダの手すりなどが6年前のまま保存されているのは震災遺構なればこそだが、それだけに、こうして震災当時の災禍を白日の下に晒し続けるモニュメントに複雑な思いを抱く人の数も少なくないだろう。

「震災遺構」と検索すると関連ワードに「賛否」や「問題」が挙がってくることから想像されるように、震災遺構として保存するのか撤去するのかをめぐって、被災地（者）のあいだで意見が二分され分断が生じることがあると、その模様をTV番組でも見聞きしたことがあった。訪問した荒浜小学校も震災遺構として開設するまでに6年という歳月を要しており、似たような状況があったことは想像に難くない。同様に、震災後に建設された地下鉄荒井駅に併設されている「せんだい311メモリアル交流館」でも、震災遺構とは異なる観点で、その新設意義が議論されたのだろうと自然に連想される。訪問時に開催されていた企画展「それから、の聲がきこえる」には個人的に強い感銘を覚えた。『東日本大震災の発生から現在まで、私たちにはそれぞれの歩みがあります。（略）あの日から現在までを振り返るワークショップを実施し、「それからの声」を集めました。個人があの日からの災禍とそれに続く一連の出来事に、どう折り合いをつけて過ごしてきたかを感じていただくために、鑑賞者と一対一の間接関係を結ぶ声を手段にするのが有効ではないか、と考えました。これは、等身大の経験をそのまま体感していただくドキュメンタリーです。』⁸という趣旨のこの催しは、交流

⁶ 「イナサがまた吹く～風 寄せる集落に生きる～」2012.6.2

http://www6.nhk.or.jp/special/detail/index.html?aid=20120602_2

「そしてイナサは吹き続ける～大災害を生きた集落11年の記録～」2016.5.21

<http://www.nhk.or.jp/docudocu/program/20/2259537/>

「それでもイナサは吹き続ける～ふるさとを紡ぎ直す人々～」2017.6.11

<https://hh.pid.nhk.or.jp/pidh07/ProgramIntro/Show.do?pkey=001-20170611-21-26283>

⁷ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校

https://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_arahama_elementaryschool.html

⁸ せんだい311メモリアル交流館

館の存在意義を決して大声ではなく、静かに、そして確実に示していると感じられる展示内容と構成だった。

観光客として荒浜小や交流館を訪れたことで、荒浜地域の被害の様子や津波の脅威、屋上から眺めた海岸線との距離、また鑑賞という形式での被災者との対話など、現地にいかなければ得られなかったであろう知覚に触れたようにおもう。それは観光でなければ味わえないことであり、観光客としてはそのような場所が設けられていることへの有難さも痛感する。しかし、同じくらい重要だと個人的に考えるのが、震災遺構や震災記録施設などが出来あがるまでの「決して一筋縄ではない“経緯”へと視線を向けることができる取り組み」の存在である。そこで実際に行われたであろう“対話”を想像する手がかりといってもいい。

たとえば震災遺構の開設に関連して『震災遺構』って何? というテーマでてつがくカフェが開かれ、その対話の記録が残され公開されている。そこでは『震災で43人の尊い命を喪った宮城県南三陸町の防災対策庁舎のように、保存が決定するまでに20年余りを要した広島原爆ドームにない、保存の是非に関する最終的な判断を次の世代に託した例もあるほどです。』⁹とはいえ、「遺構」を残すべきか残さざるべきか、あるいはそうすることがよいのか悪いのかなどといったそれぞれの立場の〈隔たり〉や〈対立〉を際立たせるような問いのたて方からだけでは、この困難さを解きほぐすには相当無理があるように思われます。なぜなら、そこには、そもそも市民にとって「震災遺構」とは何なのか、あるいは「遺構」として「価値のあるもの」、「相応しいもの」とははたしてどのようなものなのか、さらには、被災地が残すべきものとはそもそも何なのかなどといった、本来「震災遺構」が備えている(べき)特性や意味そのものについて吟味する丁寧さが抜け落ちているように思われるからです。⁹などが提起され、「一人一人にとっての遺すべき遺構の基準」についても話し合われたという。また、せんだいメディアテークでは『市民、専門家、スタッフが協働し、東日本大震災とその復旧・復興のプロセスを独自に発信、記録していくプラットフォームとして「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(わすれん!)を開設』¹⁰され、震災をめぐる写真や映像だけでなく、「タイトル・ルート・トタン ー荒浜・藤塚と浪江の記録ー」¹¹といったアート関連の取り組みや震災をめぐるさまざまなテキストや音声までもアーカイブされている。

震災遺構である荒浜小を訪問すると同時に、こうした対話の記録にも触れることによって、単に〈この場所ではなにが起きたか〉〈今後の津波対策としてどんなことを実施したか〉に留まらず、〈この場所がこうして開かれている為に被災地ではどのような対話や実践が行われたか〉という深奥部にまで入っていくことができる。このような〈異郷〉でこそ、観光客は〈震災〉経験に触れ直すことができるのかもしれない、とひと際強く感じられた。

4、〈震災〉と観光客

福島を通過して仙台へと至る新幹線やまびこに乗って北上しながら、地名や車窓の景色をどうして

http://sendai311-memorial.jp/exhibition_feature/

⁹ てつがくカフェ第57回『震災遺構』って何?』2017年2月18日

<http://table.smt.jp/?p=13430>

¹⁰ 3がつ11にちをわすれないためにセンター(わすれん!) <http://recorder311.smt.jp/>

¹¹ タイトル・ルート・トタン ー荒浜・藤塚と浪江の記録ー

<http://recorder311.smt.jp/information/55651/>

も被災地としてばかり見ているじぶんに戸惑いを覚えた。じっさい〈震災〉についてのてつがくカフェに参加したり震災遺構を訪れたのは事実で、今回のツアーの背後に〈震災〉の存在を強く感じているからなのだが、だからこそ表層的な感想ではない「じぶんにとってなるべく本質的な見解」を持つことが倫理的で正しいふるまいなのでは？と感じているじぶん自身もいて、自主規制にも似たその縛りを持って余すような気分もあった。

それは、福島や宮城を被災地としてのみ切り取って表象しているような居心地のわるさでもあり、「ダークツーリズム」¹²をしているかのような不安と後ろめたさだったのかもしれない。しかし、余所からやってきた観光客という覚束なさがあったからこそ、さまざまに学ぶことがあったのもまた事実だろう。『観光客の哲学』(東浩紀)¹³で書かれているような抽象的・概念的な「観光客」と、生身の個人としての「観光客」では条件が当然違ってくるが、それでもいくつか関連すると実感できたものもあった。

『ぼくの考えでは生きることそのものが「観光」なんです。ぼくたちはこの現実に観光客のようにやってくる。たまたまある時代ある場所に生まれ落ち、ツアー客がツアーバスで見知らぬ他人と同席するように、見知らぬ同時代人と一緒に生きていく。ツアーは1年で終わることもあれば80年続くこともあるけど、いつかは終わり、元の世界に戻っていく。そしてそんな観光地＝この現実に対して、ぼくたちはほとんど何もできない、何も変えられないし、ほとんどのことは理解できない。でもちょっとだけ関わることができる。人生ってそんなもんだと思いますね。』¹⁴*14 という東本人の発言や、『「観光客」であるだけではやはりまだ足りない。なぜならそれですでに失敗した「ネット的主体」的な様態に後退することが出来てしまうから。一方方向ではなく双方向的な関係性。だが同時に互いを無理に拘束するようなものではない関係性。「観光客」であり且つ「家族」でもあるということ。／あくまでも「観光客」として、どこかの誰かと「家族的類似性」を結ぶこと、あるいはそれを発見すること。』¹⁵という指摘は、仙台ツアーの最中でも、さろん哲学の参加者との交流や親睦会を通じて体感された。「てつがくカフェ@せんだい」のスタッフ各位との面談交流の時間は、家族的類似性という視点から振り返ってみても非常に新鮮な体験となったと感謝している。

今回のようなツアーを行うことで、ツアー一行の面々の裡で再発見されるものがあるのはもちろん、異なる場所で哲学プラクティスの実践をしている団体・個人とのあいだで交流を結ぶことができるのをしみじみと実感できた。“交流”と一言で済ませるとそっけなく感じるが、敬意や共感を寄せずにいられない相手と直に言葉を交わすことで、その存在自体に励まされるような感覚を持った。『予期せぬコミュニケーションをベースに、人間の持つ「憐れみ」という感情を足がかりにしながら立ち上がる国際的な連帯の担い手。東さんはそれを今回、「郵便的マルチチュード」とも呼んだ。郵便的とは、「誤配」される可能性を多く含んだ状態、偶然性に開かれた状態をさす用語だ。／「誤配こそが社会をつくり連帯をつくる。だからぼくたちは積極的に誤配に身を曝さねばならない』¹⁶——この度の仙台ツアーがこのように意味深長なものであり得たのかどうかという点は時間をかけて考えてみる必要があるが、こうしたツアーをぜひまた実施したいという想いを抱かせる旅であっ

¹² 週刊読書人 特集 2017年5月4日 東浩紀氏インタビュー (聞き手=坂上秋成) 「哲学的態度=観光客の態度」<http://dokushojin.com/article.html?i=1253>

¹³ 『ゲンロン0 観光客の哲学』東浩紀 (ゲンロン、2017)

¹⁴ 同注 12)

¹⁵ 評論家佐々木敦氏による「ゲンロン0 観光客の哲学」東浩紀著に関する感想
<https://togetter.com/li/1098864>

¹⁶ 「観光客」人つなぐ新たな思想 東浩紀さんが哲学書 (朝日新聞) 2017年6月21日
<http://www.asahi.com/articles/ASK6M76N9K6MULZU012.html>

た。

また新しいコラボレータの協力も得ながら、次は5年振りといわずにもう少し早くできたらとおもう。すべての参加者にご協力いただいた方々に改めて心より御礼申し上げたい。

【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

【2】

コトバをハーバリウムする #21 (つ)

本のコトバから

「権力者が事実をでっちあげ、それに疑問を呈する者を攻撃するとき、自由な社会の終わりへと向かう」

——ヒラリー・クリントン氏～2017年5月26日、母校の Wellesley College にて

歌のコトバから

There is no guidance in your kingdom
Your wicked walk in Babylon
There is no wisdom to your freedom

あなたの王国に道しるべはないのです
バビロンにおけるあなたの邪悪な散歩
あなたの自由には英知がないのです

——Thievery Corporation 『The Richest Man In Babylon』

【3】

さろんアーカイブの遊歩道 #15 (楠)

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第44回

テーマ： 「いま、考えたいと思うテーマがない」

開催日： 2014年4月19日

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon_giji_44.pdf

新聞を読み、テレビのニュースを見る度、世の中には人類全体の問題として考えるべきことがいくらかもあるのだと思い知らされる。遠くアフリカの地では貧困やそれに伴う飢餓が蔓延し、紛争は絶えることが無い。イギリスやフランスではテロが繰り返される。日本も様々な政治的・社会的課題が解決の糸口さえ掴めぬまま山積している。これらの問題への対処の在り方として「公平」や「正義」が哲学的テーマとして抽出できるだろう。

しかしこれらの「考えるべき」ことと「考えたい」ことは必ずしも一致しない。自分が考えたいことは「指示通りにやったのに何故上司が不機嫌だったのか」「何故彼女にフラれたのか」といった卑近なことであったりする。

「考えたい」という欲求が生まれるのは何かかに心動かされ、感情が生じるときであり、その対象は金銭や人間関係等、直接的な利害が伴う事象や状況に偏りがちになってしまう。物理的・精神的距離を越えて世界の諸問題を我が事として捉えるのは容易な事ではない。

編集後記

メールニュース第95号をお届けします。

こんにちはフクロウです。ほう。

みなさまこの連休をいかがお過ごしでしょうか。多くの学校では夏休みに入り、いよいよ夏本番ですね。

先日、包丁で指をきってしまいました。

それでおもいだしたんですけど、むかし、長く使っていた包丁が切れなくなり「いい加減買い換えなきゃ」とおもってヘンケルスのもので買ったんです。

そのとき砥石も勧められて一緒に買って帰ったんですけど、YouTube で砥石の使い方の映像をまねて古い包丁を研ぎ直してみてもビックリ！

完熟でぶよとしたトマトや鶏胸肉の鳥皮が、見違えるほどスパスパと切れるじゃないですか。心底感動してしまって、以来古い包丁の方ばかり研ぎ直して使って、新しいものはほとんど使わずじまい。どんな素晴らしい包丁より、ひと手間かけて研ぎ直すのがいちばん手に馴染む気がします。

哲学カフェにはそんな風に、使い込んだじぶんの考え方に磨きをかけたり磨き直したりするような魅力があります。手間をかけて磨きあげた言葉や思考は、どんな偉人の名言よりも、生きるのに役立つ武器になるのかもしれない。

さて。

毎月二回『さろん』に関する情報をお届けしているこのメールニュース、もうすぐ通号 100 号になるろうとしています。

記念のコンテンツがあるとかないとかいわれたりしていますが、それ以外にも 9/16 (土) の「さろん 7 周年記念例会」やさらなる隠し玉など、下半期のワクワクするようなお知らせをこれからお届けしていきます。ぜひお楽しみに♪

それではまた次号でお会いしましょう。ほう。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2017/7/15

⇒次号 (8 月 1 日発行予定)

さろん Mail News 第 95 号 / 2017 年 7 月 15 日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

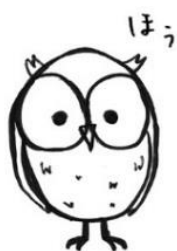
salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、
当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。 転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHP からご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2017 さろん. All rights reserved."
